

障害科学研究

2008年3月発行
第32巻

2008. 3. 8

筑大図
本学

- 原著**
- 1 益山 篤子・東原 文子・河内 清彦：
通常学級における知的障害児に対する級友の態度に及ぼす接触および性別の影響について
- 11 館山 千絵・鄭 仁豪・松本 末男：
聴覚障害幼児の象徴遊びと母子相互作用の発達に関する研究
- 21 中村満紀男：20世紀初頭米國クリーブランド公立学校における問題行動から学業不振・精神薄弱への分化過程
- 35 大六 一志・長崎 勤・園山 繁樹・宮本 信也・野呂 文行・多田 昌代・岡崎 慎治・東原 文子・竹田 一則・柿澤 敏文・菊池麻由子：
5歳児発達障害・知的障害スクリーニング質問票における発達の变化およびスクリーニング精度
- 47 原島 恒夫・吉澤 弘高・行方 真実：
高齢難聴者におけるバイノーラル音声増幅の効果—人工耳介の効果について—
- 59 高野 聡子：川田貞治郎の日本心育園における低能児教育としての心練の実践
- 73 武内 栄希・柿澤 敏文：
弱視者の最大読書速度と臨界文字サイズに及ぼす近距離視力・最大視認力・読書視力の影響
- 83 石塚 誠之・前川 久男・岡崎 慎治：
算数困難児の数処理の自動化に関する研究—数ストロープ課題における干渉効果を指標とした検討—
- 資料**
- 93 勝浦 暁・遠藤 悦史・園山 繁樹：
粘土造形にサヴァン・スキルを示す広汎性発達障害児のデッサン・スキル指導
- 107 佐島 毅：知的障害児の屈折異常に対する早期対応の現状
- 117 高浜 浩二・高橋 学・野呂 文行：
自閉性障害児の同一見本合わせ課題における維持課題挿入の効果
- 129 米田 宏樹・野口 武悟：
特別支援学校における史資料・記録類の保存と活用の現状と課題
—関東地方と関西地方の特別支援学校を対象とした実態調査から—
- 139 金 珍熙・園山 繁樹：
公立幼稚園における個別の指導計画に関する実態調査 —「障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」指定地域の協力園への質問紙調査—
- 151 園山 繁樹：Five-year follow-up case study of a boy referred for suspected autism at age 22 months
- 実践報告**
- 159 倉光 晃子・趙 慶恩・園山 繁樹：
広汎性発達障害児に対する家庭を基盤としたPECSを用いた要求言語行動の形成
- 173 長谷川清美・倉光 晃子・松下 浩之・園山 繁樹：
通常学級における「『やさしさキング』をめざそう!」の取り組み—「やさしい言葉かけ」の促進に向けた学級介入—
- 185 金子 俊明・廣瀬 由美・渡邊 明志：
聴覚障害生徒に対する作文指導におけるマルチメディア教材の効果—e-黒板を活用した“作文の修正”を中心に—
- 195 飯島 啓太・高橋 甲介・野呂 文行：
自閉性障害児における絵カード交換式コミュニケーション・システム (PECS) の家庭内での自発的使用促進に関する研究
- 障害科学学会2007年総会**
学会企画シンポジウム「大学院における特別支援教育に関わる教員養成の在り方」
- 207 齋藤 佐和：大学院における新しい教員養成の試み—リカレント教育の観点から—
- 210 小林 重雄：大学院における実践的力量の育成について
- 213 花熊 暁：特別支援教育コーディネーターの養成について—カリキュラムを中心に—
- 216 宮崎 英憲：これからの特別支援教育に求められる教員の資質と養成について
ショート講演
- 218 大塚 明敏：特別支援教育に期待すること



障害科学学会

Original Articles

- 1 Atsuko MASUYAMA, Fumiko HIGASHIBARA, and Kiyohiko KAWAUCHI
Effects of Contact Factor and Gender on Attitudes of Classmates toward Peer with Mental Retardation Child in a Regular Class
- 11 Chie TATEYAMA, Inho CHUNG, and Sueo MATSUMOTO
Symbolic Play and Mother-Child Interaction in Hearing Impairment Children
- 21 Makio NAKAMURA
Differentiation into Backwardness and Feeble-mindedness of Incurability in the Cleveland Public Schools in the Beginning of the 20th Century
- 35 Hitoshi DAIROKŪ, Tsutomu NAGASAKI, Shigeki SONOYAMA, Shinya MIYAMOTO, Fumiyuki NORO, Masayo TADA, Shinji OKAZAKI, Fumiko HIGASHIBARA, Kazunori TAKEDA, Toshibumi KAKIZAWA, Chie SAKAJIRI, and Mayuko KIKUCHI
Accuracy and Developmental Change in Developmental Disorders and Intellectual Disabilities Screening Questionnaire for Five-years-olds
- 47 Tsuneo HARASHIMA, Hirota YOSHIKAWA, and Makoto NAMEKATA
Binaural Amplification for Aged Persons with Hearing Impairment: Effects of Artificial Pinna
- 59 Satoko TAKANO
A Study on Practice of the "Shinren" as Education for Imbecile Children by Teijiro Kawada in "Nihonshinikuen"
- 73 Hideki TAKEUCHI and Toshibumi KAKIZAWA
Effects on Maximum Reading Rate and Critical Point Size with Near Acuity, Letter Acuity, and Reading Acuity in Low Vision
- 83 Masayuki ISHIZUKA, Shinji OKAZAKI, and Hisao MAEKAWA
The Experimental Study of Automaticity in Accessing Number Magnitude in Children with Mathematical Difficulties: Focusing on the Interference Effects in Number-Stroop Paradigms

Brief Notes

- 93 Akatsuki KATSUURA, Etsushi ENDO, and Shigeki SONOYAMA
Teaching Sketching Skills to a Boy with Pervasive Developmental Disorder and Savant Skill in Clay Work
- 107 Tsuyoshi SASHIMA
Present State of Early Intervention of Refractive Error in Children with Intellectual Disability
- 117 Kohji TAKAHAMA, Manabu TAKAHASHI, and Fumiyuki NORO
Effects of Interspersing the Maintenance Tasks in Identity Matching-to-sample for Children with Autism
- 129 Hiroki YONEDA and Takenori NOGUCHI
Present Condition and Problems on Preservation and Use of Historical Materials and Records in Special Support Schools: Focusing on Special Support Schools in the Kanto and Kansai District
- 139 Jinhee KIM and Shigeki SONOYAMA
A Study of the Current Status of Individual Teaching Plans Used in Public Preschools in Japan: A Questionnaires Survey of 41 Public Preschools
- 151 Shigeki SONOYAMA
Five-year Follow-up Case Study of a Boy Referred for Suspected Autism at Age 22 Months

Practical Reports

- 159 Akiko KURAMITSU, Keion TYOU, and Shigeki SONOYAMA
Shaping Mand Behavior by Home-based Communication Training Using PECS for a Child with Pervasive Developmental Disorder
- 173 Kiyomi HASEGAWA, Akiko KURAMITSU, Hiroyuki MATSUSHITA, and Shigeki SONOYAMA
The Practice of "Let's Aim for YASASISA KING (King of Kindness)" in the Regular Classroom: The Classroom-based Intervention to Promote "Kind Speaking to Classmates"
- 185 Toshiaki KANEKO, Yumi HIROSE, and Akeshi WATANABE
Effect of a Multi-media Teaching Material in Writing Instruction for Hearing Impaired Students: Focusing on the Activities in which Hearing Impaired Students Correct the Mistakes of Sentences, Using an e-board
- 195 Keita IJIMA, Kousuke TAKAHASHI, and Fumiyuki NORO
Spontaneous Use of the Picture Exchange Communication System (PECS) in Home by a Child with Autistic Disorder

Annual Meeting of the Association of Disability Sciences, 2007

- Invited Symposium "The Desirable Way of Teacher Education concerning with the Special Support Education in Graduate School"**
- 207 Sawa SAITO
The Attempt of Recent Teacher Education in Graduate School: In terms of Refresh Education
- 210 Shigeo KOBAYASHI
Training of Practical Ability in Graduate School
- 213 Satoru HANAKUMA
Education for Special Support Education Coordinator: Focusing on Curriculum
- 216 Hidenori MIYAZAKI
The Quality of Teachers Necessary to Special Support Education in the Future and Its Training
- Short Lecture**
- 218 Akitoshi OOTSUKA
The Hope on Special Support Education

編集委員長	中村満紀男 (筑波大学)	池谷 尚剛 (岐阜大学)
編集委員	池田由紀江 (健康科学大学)	尾崎 久記 (茨城大学)
	奥野 英子 (筑波大学)	蒲生 俊宏 (日本社会事業大学)
	小畑 文也 (筑波大学)	佐竹 真次 (山形県立保健医療大学)
	河内 清彦 (筑波大学)	鄭 仁豪 (筑波大学)
	真城 知己 (千葉大学)	前川 久男 (筑波大学)
	長崎 勤 (筑波大学)	安藤 房治 (弘前大学)
審査委員	安藤 隆男 (筑波大学)	池本喜代正 (宇都宮大学)
	池谷 尚剛 (岐阜大学)	石部 元雄 (筑波大学名誉教授)
	石川由美子 (宇都宮短期大学)	大塚 玲 (静岡大学)
	大石 幸二 (立教大学)	岡田英己子 (首都大学東京)
	岡 典子 (東京学芸大学)	小野 純平 (法政大学)
	尾崎 久記 (茨城大学)	香川 邦生 (健康科学大学)
	小畑 文也 (筑波大学)	加藤 靖佳 (筑波大学)
	柿澤 敏文 (筑波大学)	河内 清彦 (筑波大学)
	河合 康 (上越教育大学)	菅野 和恵 (筑波大学)
	川間健之介 (筑波大学)	熊谷 恵子 (筑波大学)
	北村 博幸 (名寄市立大学)	齋藤 佐和 (目白大学)
	小林 秀之 (広島大学)	佐竹 真次 (山形県立保健医療大学)
	佐島 毅 (筑波大学)	澤 隆史 (東京学芸大学)
	真城 知己 (千葉大学)	園山 繁樹 (筑波大学)
	篠原 吉徳 (筑波大学)	武居 渡 (金沢大学)
	大六 一志 (筑波大学)	中村満紀男 (筑波大学)
	鳥山 由子 (筑波大学)	生川 善雄 (千葉大学)
	長崎 勤 (筑波大学)	野呂 文行 (筑波大学)
	野口 幸弘 (西南学院大学)	東原 文子 (筑波大学)
	原島 恒夫 (筑波大学)	前川 久男 (筑波大学)
	藤原 義博 (筑波大学)	松村多美恵 (茨城大学)
	松岡 勝彦 (山口大学)	柳本 雄次 (筑波大学)
	宮本 信也 (筑波大学)	四日市 章 (筑波大学)
	結城 俊哉 (筑波大学)	
編集幹事	米田 宏樹 (筑波大学)	山中 克夫 (筑波大学)
	大六 一志 (筑波大学)	

障害科学研究

第32巻 (2008, Vol. 32)

平成20年3月25日発行

編集 障害科学学会 編集委員会

発行 障害科学学会 会長 池田 由起江

発行所 障害科学学会
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学障害科学系内
FAX 029(853)6504
e-mail adsj@human.tsukuba.ac.jp

印刷所 前田印刷株式会社筑波支店
〒305-0033 茨城県つくば市東新井14-3
電話 029(851)6911

投稿規定

1. 本誌は、障害科学学会の機関誌であり、年1巻発行する。なお巻号は前身の雑誌である「心身障害学研究」を引き継ぐものとする。
2. 本誌の執筆者は障害科学学会会員に限る。
3. 本誌の編集は、障害科学学会編集委員会の責任のもとに行われる。
4. 本誌には未公刊の和文または英文で書かれた障害科学に関する「原著論文」、「短報」、「資料」、「実践報告」、「展望」のほか、編集委員会が認めた論文等を掲載する。このうち、「原著論文」は、理論的、実験的または事例的な研究論文で、オリジナルなものとする。「短報」はそのようなオリジナルな研究の途中経過や一次的な報告を指す。これに対し、「資料」は、調査、統計に関するもの、歴史的に価値ある文献資料の紹介、方法論的試論、新しい実験装置の紹介、内外諸研究の追試検討したものとする。また、「実践報告」は実践報告会、事例検討会等でモデルとなりうる報告、「展望」は障害科学に関係のある課題について、内外の諸研究の成果を総合的に概観・展望したものとする。
5. 論文は、査読委員によって審査され、編集委員会において、その掲載の可否が決定される。
6. 規定枚数を超過したもの、および図表、写真等の製版・印刷等、特に費用を要するものは、別途執筆者の負担とする。
7. 別刷りは執筆者の負担とする。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は障害科学学会に帰属し、無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
9. 投稿論文の内容について、十分に人権および倫理上の配慮がなされていなければならない。

執筆規定

1. 原稿の仕様 原則としてワープロを用い、A4判用紙に25字×32行（800字）で印字された原稿を提出すること。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。和文では、本文、文献、図表、要約をすべて含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文、資料、実践報告、展望は10頁を上限とする。英文では、本誌8頁（approximately 550 words per page; including Abstract, References, Tables, and Figures）を上限とする。また、短報は和文で5頁、英文で4頁とする。これを超過する論文については、編集委員会で掲載の可否を決定する。
2. 提出原稿 原著論文・資料ともに、オリジナル1部とコピー2部を添えて提出すること。また提出原稿はA4判とし、表紙には和文表題、英文表題、執筆者名、代表者の連絡先（電話番号を含む）を明記すること。なお、論文採択後には電子ファイルを提出する。
3. 図表など 白紙に黒色インクで明瞭に書かれたものを用い、写真を用いる場合は鮮明なものを提出すること。表や図の番号はTable 1, Fig. 1のように記入し、表題、説明ともに一括して別紙に記載すること。また、本文中にその挿入箇所を明示すること。
4. 和文要約 和文論文および英文論文には、問題、方法、結果、結論の要約をほぼ把握できるように、和文で400字以内の要約と3～5項目の和文キーワードを本文とは別葉にて提出すること。
5. 英文要約 和文論文および英文論文には、英文表題、200～300ワードの英文要約、3～5項目の英文Key Wordsを本文とは別葉にて提出すること。
6. 表記 新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いること。外国人名・地名等の固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出の際にだけ原語を付す。文献は論文の最後にアルファベット順に一括して示すこと。雑誌文献記述の形式は、著者名、発行年、題目、雑誌名、巻数、論文所在頁の順とし、単行本文献記述の形式は、著者名、発行年、書名、出版社、出版地の順とする。
7. 註 必要がある場合は、本文中に1)、2) …のように上付きの通し番号で註を付し、すべての註を本文と文献欄の間に番号順に記載すること。
8. 印刷形式 印刷の体裁は編集委員会に一任する。
9. その他 執筆に関する詳細は、日本特殊教育学会の『「特殊教育学研究」和文論文執筆の手引き』と、最新の特殊教育学研究英文特集号の表紙裏Information for Contributorsに従うこと。